

命と心をつなぐ科学 HAB 市民新聞

2018年1月号

第48号

ご自由にお持ち下さい



❖CONTENTS

救命救急医療と心肺蘇生『救急車』

身近な薬草と健康『万葉集の薬草-2』

くすりは最高・くすりを再考『馬鹿につけるくすりの研究』

みんなの病気体験記『心臓カテーテルアブレーション体験記』

救命救急医療と心肺蘇生

第4回 救急車

東海大学医学部教授

猪口 貞樹

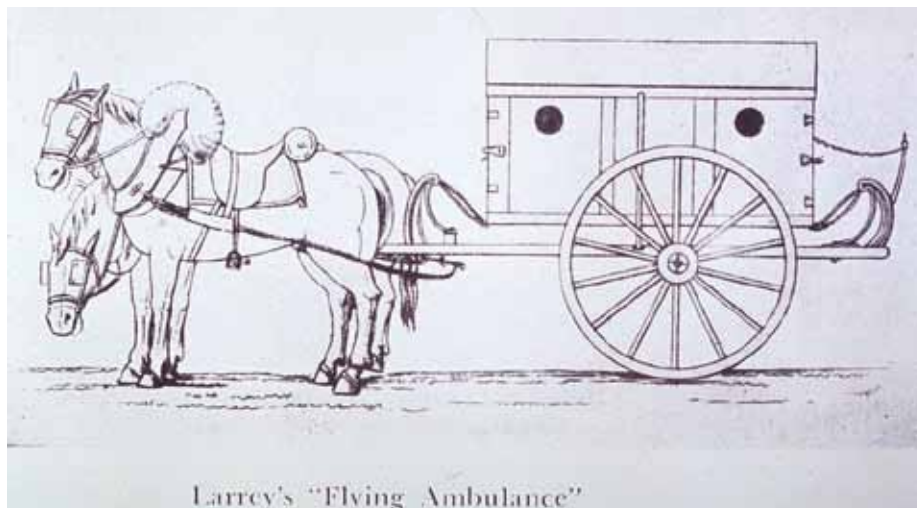
1989年7月14日、パリの民衆がバスティーユの監獄を襲撃、その後フランス各地で騒乱が続きました。ブルボン王朝の崩壊につながるフランス革命です。革命によって国内政治は大混乱をきたし、反発する周辺国は革命政府に圧力をかけます。1791年立法議会が成立すると、ジロンド派は革命干渉軍に対する戦争を主張して内閣を組織、1792年オーストリアに宣戦布告してフランス革命戦争が始まります。翌1793年にはイギリス、オーストリア、プロイセン、スペインなどによる第一次対仏大同盟が結成されました。

このころ、フランス陸軍（ライン軍）にいた26歳の軍医ドミニク・ラーレー（Dominique Jean Larrey）は、戦闘で発生する負傷兵を助ける方法を考えていました。17世紀から18世紀後半にかけて様々な軍事技術が発達し、火器の威力が増すとともに、大人数の軍隊が野外で戦うことが多くなったので、戦闘で大量の負傷兵が発生し、その多くは治療を受ける前に亡くなっていました。当時の野戦病院は戦場から4.8 km以上離れて設置することが決められており、負

傷兵は会戦が終わってから馬車で順次野戦病院まで運ばれていたもので、治療開始までに24～36時間かかり、間に合わなかったのです。

一方、当時の戦場では、馬車に牽かれた軽量の移動式大砲（野砲）が、歩兵や騎兵とともに活躍していました。大砲は破壊力が強い一方、重くて移動が大変なため、以前は主に城や船のような構築物を破壊するのに用いられていました。それまでの大砲は、丸ごと鋳型で鋳造されていたので重く精度が低かったのですが、フランス陸軍のグリボーバルが、砲身に旋盤のような機械を使って正確に穴を開ける方法で高精度の軽い大砲を作ることになり、1776年には大砲と砲弾を規格化して大量生産が可能になりました。その後、軽量の移動式野砲が大量に作られ、馬車で戦場を駆け回っていたわけです。

これを見たラーレーは、負傷兵を助けるための部隊を作り、高速の馬車で戦闘中に負傷兵を運び出し、一か所に集めて治療できないかと考えました。高速で移動する野砲は「空飛ぶ大砲」と呼ば



図：ラーレーの空飛ぶ救急車

Jean-Dominique Larrey, Mémoires de Chirurgie Militaire et Campagnes, Paris, France: published by J. Smith, F. Buisson, 1812.

れていたのです。彼の考えた高速患者輸送車を「空飛ぶ野戦病院（Ambulance Volante）」と名付けました。そしてこれを試作し、1793年にラインラント付近の戦闘で試験運用したのです。結果を見たラーレーと上官は、その有効性に驚き、ただちに製造を上申しましたが、しばらくは実現しませんでした。

同じころ、傷病兵の輸送は政治課題になっていたのです。1792年に国民公会は「戦傷者を搬送するための輸送車」を作るとを宣言、1793年にパリで懸賞金付きのデザイン・コンテストが行われていました。29も集まったデザインは大型の荒唐無稽なものばかりで実現性はありませんでしたが、このコンテストのため、ラーレーのアイデアが実現するのは遅れました。

ラーレーのシステムは、2頭立て軽量馬車（救急車）を数多く配置し、散在する傷病者を迅速に一か所に集めて治療することを目的にしています。戦場では応急処置にとどめ、軍医や資機材などの医療資源を一か所に集約しておき、そこに搬送して手足の切断術などを行うというものです。負傷した兵にはただちに初期治療が行われ、四肢切断術などの根本治療も早期に実施することで、出血や感染の危険が大幅に低下します。迅速な搬送と医療資源の集約的利用という彼のコンセプトは、200年以上を経た今日でも、世界中の救急医療システムや災害医療システムの基本になっています。また、元々はテントでできた簡易治療所の名称であった「ambulance」は、世界のどこでも救急車の呼び名になっています。

さて、同じころ、フランス陸軍には24歳の砲兵大尉ナポレオン・ボナパルトがいました。1793年、反乱を起こした王党派とイギリス・スペイン艦隊が南フランスの港湾都市トゥーロンにたてこもり、攻囲戦が行われていました。砲兵隊長になったナポレオンは、優れた砲撃作戦によっ

て3ヶ月続いた激戦を勝利に導き、准将に昇格、一躍有名になりました。1794年のトゥーロンで、ラーレーは初めてナポレオンに会っています。ラーレーはその後結婚し、パリに戻って、1797年にVal-de-Grâce陸軍病院の教授になりました。

一方、ナポレオンは、トゥーロン攻囲戦での功績により、1796年に、膠着状態となっていたイタリア遠征軍の司令官に抜擢されます。イタリアでナポレオン軍は連戦連勝を重ね、1797年2月にはオーストリア軍の拠点であったマントヴァを開城させ、講和条約が締結されました。

1797年、フランス陸軍省はパリにいたラーレーに対して、ナポレオンの要請に応じてイタリアに赴任し、戦争を医療面から支援するよう命じます。これには野戦病院の設置とイタリア遠征軍における医療スタッフの組織化が含まれていました。さらにミラノに到着すると、彼の「Ambulance Volante」システムを作るよう指示されます。イタリア遠征軍の中に彼の部隊を作り、医療スタッフを組織化し、教育体制を確立せよということです。ラーレーは、ようやく彼のアイデアを実現する機会を得たのです。

ラーレーの考えた組織は、3つの分隊からなり、340名で1つの部隊を形成します。各分隊にも指揮者がおり、それぞれ12台の2頭立て軽量馬車と4台の重量馬車を持ち、それぞれ7名（計113名）が配置されていました。負傷兵を乗せる架台は幅81cm、2名が並んで横になれる箱状のもので、側面に換気窓と資機材や薬を入れる区画、担架などが設置されています（図）。スタッフの階級と役割は細かく決められていて、軍医12名は、薬や材料、機器を入れたバッグを鞍に取り付けるか背負って馬に乗り、同様の歩兵25名は徒歩で、救急車とともに移動し、戦場で負傷者の応急処置を行い、搬送します。（つづく）

猪口貞樹 先生 <医学博士、東海大学医学部附属病院>

市民新聞45号から「救命救急医療と心肺蘇生」をご連載いただきます猪口貞樹先生は、慶應義塾大学医学部をご卒業後、東海大学医学部外科に進まれ、その後、救命救急医学の道に進まれました。

現在、東海大学医学部附属病院高度救命救急センターの所長として、救急車やドクターヘリで運ばれてくる重症患者の救命にあたられている猪口貞樹先生に、救急医療の最前線から8回のご連載をいただきます。



身近な薬草と健康

第18回 万葉集の薬草－2

千葉大学 環境健康フィールド科学センター
池上文雄



はじめに

前回(第44号)に引き続き、『万葉集』に登場する植物11種類ほどを取り上げました。四季折々の季節感と薬用にもなる植物を愛でる様子が伝わってきます。さあ再び、しばし万葉の世界に出かけてみましょう。植物名や漢字は現代用語での表記です。

春: カシワ、センダン、ホオノキ、モモが詠われています。

カシワ (柏)

稲見野の いなみの あから柏は がは 時はあれど あすかべのおおきみ
君を吾が思ふ あ 時は實無し あすかべのおおきみ 安宿王



「稲見野のアカラガシワは時節が決まっているけれども、君を思う私の気持ちは、時節に区別なくいつでも胸いっぱいです」と詠われています。端午の節句の柏餅といえは柏の葉ですが、春のやさしい日差しの下での葉は柔らかく、そして黄みを帯びた花はうつむき加減に垂れ下がります。切なく優しい心が伝わってくるようです。

カシワ(柏: *Quercus dentata*)は、北海道から九州および朝鮮半島などの山地に自生するブナ科の落葉高木で、葉は枝先に集まって互生し、縁に波形のあらい鋸歯があります。秋に褐色となって枯れますが、そのまま枝について冬を越し、春に落葉します。古い時代に広い葉を利用し、食べ物を包んだりしたので炊葉と呼ばれたのが語源です。餅を包むことからモチガシワともいわれます。

民間では、夏期に樹皮や葉を、秋に種子を採取して日干ししておき、収れん剤として下痢に煎じて服用します。また樹皮は染色に用いられます。種子は砕いて水でさらし、渋抜きして食用になります。

センダン (梅檀)

妹が見し いも 棟の花は あふち 散りぬべし あふち
わが泣く涙 いまだ 干なく いまだ 山上憶良 やまのうへのおくら



「長官の奥さまがごらんになったあふちの花は、きっと散ってしまうことであろう。長官のことを思うと私の泣く涙はまだ乾きもしないのに」と、旅人の妻の死を悲しんで憶良が詠んだ歌です。妻を亡くした旅人を気遣ういかにも憶良らしい優しさが感じられます。

センダン(梅檀・阿布知: *Melia azedarach*)は、四国や九州などの暖地の海辺や山地に自生するセンダン科の落葉高木で、5月頃に若葉の中に上品な藤色の美しい小さな花を開き、薫風に揺れる花房は清々しく感じられます。センダンの葉に芳香はありません。秋には小さな黄色果実をつけます。

民間では、樹皮(苦楝皮)を整腸、条虫駆除薬として煎じて服用し、熟した果実は、ひび、あかぎれなどに生をすり潰して患部に塗布します。

「梅檀は双葉より芳し」といわれるセンダンはインド原産の香木の白檀のことで、万葉のあふち(おうち)とは関係ありません。

ホオノキ (朴の木)

わが背子が せ 捧げて持てる せ ほほがしは あお
あたかも似るか あお 青き蓋 あお 僧恵行 あお



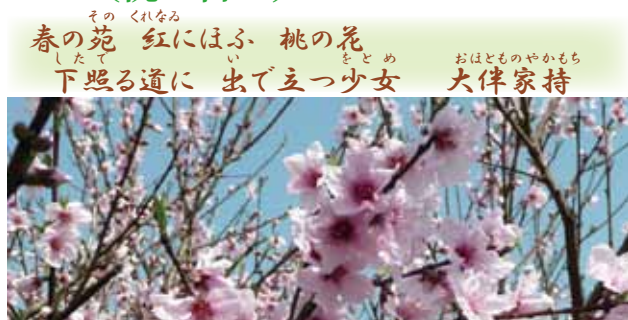
「わが君が捧げ持っているホホガシワの葉は、まるで高貴な方の青い絹傘みたい」と、ホオの葉

は日覆いにもなるようです。また、昔はホオの葉を盃にして酒を飲んだようで、古くから私たちの暮らしの中にもありました。今でも、奈良県の吉野地方の塩鯖を薄く切って酢飯にのせた押し寿司や、信州や飛騨高山などの朴葉味噌はよく知られています。

ホオノキ (*Magnolia obovata*) は日本特産で、各地の山地または平地の林内に自生するモクレン科の落葉高木で、高さ 30 m にもなります。5 月頃、枝先に乳白色で径 15 cm ほどの 9 弁花を開き、芳香があり、花の大きさは日本の自生種で最大とされます。花を囲むように大形の葉が枝先に輪生するのも特徴です。

漢方や民間では、6～8 月頃に幹や枝の樹皮を剥ぎ採り、日干ししてから刻み、厚朴と称して、咳、たん、胃炎、利尿、むくみ、つわりなどに用います。材は細工しやすく、版木・楽器などのほか、木炭に用いられます。

モモ (桃・百々)



「大和の山辺は、桃畑があちこちにあって美しく、桃の花の色が紅く映える道に出で立つ少女の姿よ」と詠う家持は、雪国越中での長い国守の勤めの中で心待たれるのは春の訪れであったことでしょう。そして、春の苑は家持夫婦の心の春景色でもあるようです。桃の花が咲き匂う絵を見ているようですね。

モモ (桃・百々: *Prunus persica*) は、中国北西部原産のバラ科の落葉小高木で古くから栽培化されてきました。多くの果実をつけることから木に兆と書きますが、兆は実が左右二つに割れる様を表します。和名の由来は、実が「百々」の数ほど多いとする説などがあります。

漢方では、種子の仁を桃仁と称し、消炎や鎮痛の目的で婦人病などに、また半開きの蕾 (白桃花) を浮腫や脚気、便秘、無月経に用います。民間では白桃花を便秘に用いますが、作用が強いため妊婦や虚弱者には適しません。葉は浴湯料として知られ、刻んだ葉を風呂に入れて夏場のあせ

もや湿疹、かぶれ、荒れ性などの皮膚病に用いられます。

中国では桃の花の咲き乱れる桃源郷を理想とする道教思想や桃の生命力が強いことから桃には邪気を払う魔除けの作用があるとされ、日本でも桃の節句には桃の花を飾り、魔除けに桃酒を飲む風習があります。

夏：ショウブ、ヒルガオ、ヤブカンゾウ、ユリが詠われています。

ショウブ (菖蒲)

ほととぎす 待てど来鳴かず 菖蒲草
玉に貫く日を いまだ遠みか 大伴家持



「ホトトギスの鳴き声を待っているのにやって来て鳴いてはくれない。薬玉を作る五月の節句までまだ遠いからだろうか」と、青葉の季節が来ておめでたい祝いの日を待つ気持ちが、ホトトギスの飛来と合わせて表現されています。こうした感性は、現代の暮らしの中でも失いたくないですね。なお「玉に貫く」とは、菖蒲の葉を糸で薬玉の魔除けの飾りとして貫くとの意味です。

あやめぐさと聞くと、いかにもきれいな花が咲きそうな気がしますが、ショウブの花は黄色い筆の穂先のように、ユーモラスな形です。ちょっとがっかりします。

ショウブ (菖蒲: *Acorus calamus*) は池や沼の縁などに自生するショウブ科 (旧サトイモ科) の多年草で、古くは「あやめぐさ」と呼ばれました。アヤメ科のアヤメやカキツバタ、ハナショウブとは別種で、各地の菖蒲園で観賞用に栽培されているのはハナショウブです。

古来より縁起の良い植物とされ、葉に芳香があり、端午の節句の菖蒲湯に用いられます。花期は 5～7 月、葉の間から花茎を出し、淡黄緑色の円柱状肉穂花序をつけます。

民間では、乾燥した根茎 (菖蒲根) を刻んで布袋に入れ、適量の水で煮沸後に煮汁と共に浴槽に入れて神経痛やリウマチなどに浴湯料とします。また、鎮静、鎮痛作用があるので、咳、たん、食欲不振、胃炎などに、菖蒲根の粉末を服用します。

ヒルガオ (昼顔)

たかまど のべ かほばな
高圓の 野邊の容花 面影に
見えつつ妹は 忘れかねつも おほとものやかもち
大伴家持



「高圓の野邊の容花のように、面影に見えて、妹は忘れることができない」と、正妻の坂上大嬢さかのうえのおおいらつめに想いを馳せた歌ですが、この時二人は何かの事情で離ればなれになっていたのでしょうか。「かおばな」と聞いただけで、姿形の美しい花が浮かんできます。草むらの中にかわいい花を見かけると、暑さも忘れて思わずその美しさに見とれてしまい、やがてその花に重ねて好きな女の顔ひとが浮かんで来て、嬉しくもあり、寂しくもなるときですね。

ヒルガオ(昼顔: *Calystegia japonica*)は日本各地の道ばた、野原などに普通に見られるヒルガオ科のつる性多年草です。6～8月、アサガオを小さくしたような淡紅色の花を開き、結実することはほとんどありません。和名は、アサガオが早朝に開花して昼頃しぼむのに対して、昼過ぎになっても開花していることによります。

民間では、開花期の全草(せんか)を乾燥して、急性腎炎などのむくみや疲労回復に煎用し、神経痛には浴湯料として用います。虫刺されには生の葉を揉み、その汁を患部に塗ります。若芽や花は茹でて水にさらしてお浸しなどにして食べることができます。

ヤブカンゾウ (藪萱草)

忘れ草 わがいもにつくときとなく
思ひわたれば 生けりともなし 作者不詳



「いつもあの人のことを想っていて、生きた心地がしません。何とか忘れようと思って忘れ草を身につけてみましたが」と、恋の苦しみが忘れられない心境を詠った歌です。

忘れ草と呼ばれるヤブカンゾウ (*Hemerocallis*

fulva var. *kwanso*)は、夏に美しいオレンジ色の波打つような八重咲きの花びらを開き、1日で散りゆく短い花の命と考えられたため、万葉人はこの花に託して辛いことを忘れようとなりました。ヒルガオ、そしてヤブカンゾウといい、万葉人は花の名前のつけ方がうまいですね。

中国原産で古くにわが国に渡来したススキノキ科(旧ユリ科)の多年草で、一重咲きはノカンゾウといい、また、ニッコウキスゲやアキノワスレグサなど、多くの仲間がやや湿った草地などに分布して、群生する様は夏の風物詩ともなっています。

これらの仲間の若葉や蕾(きんしんさい)は食用に、根と蕾は薬用になります。民間では、乾燥した蕾を解熱に、乾燥した根を膀胱炎や不眠症に煎じて服用します。

ユリ (百合)

みちのべ くさぶか ゆり ゆり
路の邊の 草深百合の 後にどふ
妹が命を われ知らぬやも かきのもとのおとまり
柿本人麻呂歌集



「会ってくれませんかという、いつもあの娘は後でねとかわしてしま。道ばたにひっそりと咲いているユリの花のようにはいつまでも待てないよ」と、好きな女性(ひと)に少しでも早く会いたい男の気持ちを詠った歌です。さらりとかわす女心——いつの時代も以心伝心は難しいですね。

ヤマユリ(山百合: *Lilium auratum*)は最も一般的なユリで、本州近畿以北の丘陵から山地にかけて草原や林の中に自生するユリ科の多年草で、夏の盛りに茎の先に花を横向きに開き、内側に赤い斑点があって良い匂いがします。百合と書くのは、ユリ根の鱗茎(りんけい)が幾重にも合わさっているからです。

漢方や民間では、鱗茎を百合(びやくごう)と称して、滋養強壮や鎮咳の目的で用います。また食用として珍重されます。

秋: キキョウ、ススキ、ヤブコウジが詠われています。

キキョウ (桔梗)

こいまろ こ
展轉(てんてん)ひ 戀(こい)ひは死(し)ぬとも いちしろく
色には出で(い)朝顔(あさがお)の花 作者不詳



「恋焦がれて死ぬようなことがあっても、決して人目につくようなことはしません。朝顔の花のように鮮やかでは、人に知られるので」と、恋をした乙女心の淡い切なさを詠んでいます。

万葉集の「あさがほ」が今の何にあたるかについては、ムクゲ・アサガオ・ヒルガオ・キキョウの諸説がありますが、今日ではキキョウとするのが一般的です。

キキョウ（桔梗：*Platycodon grandiflorum*）は日当たりの良い山野に自生するキキョウ科の多年草で、秋の七草の一つ。8～9月に青紫色の星形の花を咲かせますが、園芸品種では白や淡紅色、また八重咲きもあります。

漢方や民間では、秋に掘り採った根を天日乾燥し（桔梗根）、扁桃炎や中耳炎、気管支喘息などの薬にします。正月の屠蘇の材料の一つです。また食用にもされます。

ススキ（薄）

めいひの野の薄おしなべ 降る雪に
 屋戸借る今日し 悲しく思ほゆ 高市黒人



「日本海から吹きつける寒風の中を、宿を借りるために歩き続けねばならない。この雪のせいかな、それともススキのためだろうか、今日は何とも悲しいことよ」と、冬の厳しさを嘆いているのか、それとも寒風の雪の中に宿を求める姿に何かの思いを重ね合わせているのでしょうか。婦負の野は、富山市の神通川が流れているあたりで、今

も婦負郡と呼ばれ、万葉の名残をとどめています。

ススキ（芒、薄：*Miscanthus sinensis*）は日当たりの良い山野に自生するイネ科の多年草で、高さ1～2mとなり、夏から秋にかけて茎の先端に花穂をつけます。その銀色に輝く花穂をさして尾花と呼び、秋の七草の一つです。かつては茅（萱）と呼ばれ、農家で茅葺屋根の材料に用いられました。

民間では、春先の葉が発芽する前に掘り採った根茎を天日乾燥し、風邪のときの解熱薬として煎用します。

ヤブコウジ（藪柑子）

あしき色の山橘の色に出でよ
 語らひ継ぎて 逢ふこともあらむ 春日王



「ヤブコウジの実だってあんなにはっきりと色づくのだから、私たちも人目を忍ぶのをやめましょう。そうすればいつでも会えるし、話もできるでしょう」と、世間体を気にするのはいつの世も男の方ですね。

ヤブコウジ（山橘：*Ardisia japonica*）は、北海道から九州、東アジアの丘陵地林内の樹下に自生するサクラソウ科（旧ヤブコウジ科）の常緑小低木で、真夏に小さな白い花が咲き、冬の寒気の中で日の光を受けると赤い実は鮮やかに輝きます。まるで人目を忍ぶのをやめた恋人同士のようなです。同属のマンリョウを万両というように、十両とも呼ばれ、正月向きの盆栽樹として賞用されます。

民間では、11月頃に掘り上げた根茎を乾燥し、咳止めや化膿性のはれものなどに用います。

二度目の万葉の世界はいかがでしたか。今回は、泌尿器系疾患に用いられる身近な薬草の話です。

池上文雄先生 <薬学博士>

市民新聞 31号から新シリーズ「身近な薬草と健康」を連載頂きます池上文雄先生は、福島県のご出身で、専門の薬用植物学や漢方医学の知識を生かした薬学と農学の融合を目指し、「植物を通して生命を考える」「地球は大きな薬箱」をモットーに健康科学などに関する教育と研究に取り組んでいらっしゃいます。また、NHK文化センター柏・千葉教室などで「漢方と身近な薬草」などの講師をされています。2013年3月に千葉大学環境健康フィールド科学センターを定年退職されましたが、引き続き同センターで特任研究員、2015年4月からは千葉大学名誉教授としてご活躍されています。池上先生には、これまで市民新聞第1号から30号まで「漢方事始め」を連載して頂きました。

くすりは最高・くすりを再考

—医療と医薬品を取り巻くさまざまな問題

NPO 法人青葉の樹理事長・薬剤師、元厚生省・環境庁勤務
山本 章

第8回 馬鹿につけるくすりの研究

浪曲に「ドジで間抜けで出鱈目で、その上寝坊でオッチョコチョイ・・・」という一節がある。年のせいでもう寝坊はないが、他は思い当たる節がある。いや、全部当たっている。一言で言えば、馬鹿だ。

世に「馬鹿につけるくすりはない」と言うが、本当にないのだろうか？あつて欲しいし、あつたような気もする。と言うのも、自分自身の馬鹿さ故に、いずれとんでもないミスを出かして、人生を全う出来ないと恐れていた割に、事なきを得て齢72歳に達したから。不思議の念を禁じ得ない。

私は関東一都二県に住んで50年近い。その前は、関西二府一県に20年余り住んでいた。その経験で言うと、「馬鹿」は主に関東で、また「アホ」は主に関西で使われているような気がする。

関西で誰かに「あのアホが・・・」と言われると、そこには若干可愛げがあると言うニュアンスが含まれ、「馬鹿」と言われると、人格まで否定されたかの如き響きが伝わる。これに対して関東の人が「アホ」と言われると、痴呆に近いニュアンスが伝わり、衝撃を受けるようだ。

私が自身の馬鹿さ加減にあきれたのは、大学入学後のこと。弓道部の夏の合宿は、長野県の道場で実施されるのが常。ある年、信州野辺山の草原の一隅に設けられた道場での合宿は、涼しくて開放感に満ちた時間を過ごすことが出来た。暑い京都から逃れてきただけに、大満足であった。

何しろ弓を構えた的のその先には日本一高い小海線が走っていて、朝の通勤列車が終わると、豚やキャベツを積んだ貨物列車が通る。そんな所で朝起きてから夕食の前まで、唯々弓を引くのである。

ある日私は、昼休みに草原に出て弓を引こう、と仲間に提案した。そして棒矢（羽の付いていない練習用の矢）をつがえて、天に向かってこれを放った。その爽快感！！

しかし次の瞬間、棒矢は羽がないので尻を振りながら落下を始め、私は草原を逃げ惑った。あわ



イラスト：美安 由紀子

や自分の矢に脳天をぶち抜かれるところであった。ぶち抜かれていれば、翌日の新聞に「京大生、弓矢自殺?!」などと言う活字が躍ったに違いない。

こんなことは、実は日常茶飯事。大学での化学実習、大学院での有機化学合成研究で様々なミスを出かし、厳密を旨とする薬学・薬剤師の世界ではとても生きていけないと覚悟した。最近では作家の大西エリーが同様の経験をしている。そして大学院中退後、行き場を失って行政の道に進んだが、生来の馬鹿な性分は変わることなく、厚生省に入省すると際どいミスを連発した。

昭和62年6月私は、後に参議院議長になられた厚生大臣のお供の一員としてウィーンの国際会議に出席した。代表演説当日の朝、ホテルの一室で大臣は「山本君の方を向くから・・・」と言われた。「そのタイミングを逃さず写真を撮れ。」との指示だ。国内ではそんな仕事は秘書官が担当だが、一旦海外に出ると秘書官は知らん顔。国際課職員の仕事なのだ。

私は写真部歴のある後輩職員にカメラを借りて随行したのだが、念のため使い捨ての馬鹿チョンカメラも携帯した。いざ大臣の演説順が迫ってきて、私は愕然とした。前日国際機関代表部職員と会場の下見をしたにもかかわらず・・・

広い会場のフロアーから演壇まで、いくら近

づいても大臣の姿は豆粒より小さい。距離は2、30メートルある。望遠レンズなどの用意もないし、そもそも使ったこともない。その上何故かシャッターが下りない。馬鹿チョンなど何の役にも立たない。万事休す。

しかしその時、会場で各国代表を順次撮影する、腕章をまいたカメラマンに気付いた私は、彼に「日本代表の写真を沢山取ってくれ。全部買うから」と頼んだ、いや懇願した。

演説終了後、会議場に続く通路に各国代表の写真が貼り出されたが、日本代表の写真がいやに沢山あることに気付いた人も居た筈だ。

帰国後その写真を大臣に届けたところ、「山本君は写真が上手だねえ。」と言われて首をすくめた。その写真は選挙区の人達への活動報告に使われたが、これが無ければ、クビとまでは言わないまでも左遷されたに違いない。

言葉足らずで危ない目にあっただけもある。薬物乱用防止活動を担当する部署にいた頃、ある音楽雑誌のインタビューの申し込みがあったので、お金をかけずに啓発活動が出来るこの企画に飛び乗った。

当時、ミュージシャンの中に大麻を乱用する風潮が広がりを見せていた。私は、大麻に限らず薬物乱用の恐ろしさを訴えた上、実例として、つい一週間前に日比谷公会堂で開かれた薬物乱用防止キャンペーンで聞いた話を引用した。

「山本コータローの友達が、大麻を吸って曲を作るととても良いものが出来た感じがして、いざしらふになって聞いてみるとメチャクチャだった、と言う話を聞いた。」とインタビューに話したつもりだった。念のためにゲラを見たいと頼んだが、後日届いたファックスを見て気絶しそうになった。

「の友達」が抜けている。インタビューは録音していたから、私がそう言ったのは間違いない。この記事がそのまま印刷・発行されると、事実無根の名誉棄損で有罪になり、クビになることは間違いない。あわてて出版社に電話したが、日付の

変わる頃で応答がない。

翌朝一番電車で出版社を訪ねて事情を話し、辛うじて輪転機を止めてもらった時の安堵感は一瞬忘れられない。

これほどのマグニチュードではないが、些細なミスは毎日山ほどあったし、今もって続いている。披露宴の司会を頼まれると、新郎新婦を入場させずに会を進行させたし、来賓の名前を間違えて読んでお叱りを受けたこともあった。

個人的には現役当時、ネクタイが襟の上に来ている、カフスボタンが左右別物、靴下の踵が上に来ている、ステテコの前後を間違えて穿いて勤務先のトイレで大騒ぎする等など。

忘れ物・落とし物も多彩だ。夏は扇子と帽子、冬はコート・マフラーと手袋、そして定期券・傘・ボールペンは通年である。そんなことから、最近では、モノを持つから落し物・忘れ物をすると考えて、可能な限りモノを持たないことにした。

そんな毎日が続くので、ある時女房が「そんなことで良く仕事出来るわねえ」と言った。女房は私の馬鹿さ加減を毎日数時間見てそう言っているが、本人は起きている間ずっとだ。

しかし振り返ってみると、厚生省勤続30年、その後もサラリーマン生活を続けたが、見かけ上大過なく時は過ぎた。これは、「馬鹿につけるくすり」は無くても何とかかなると言う証ではないか。

最後に近年のIT機器の進歩について一言。このところ、スマホのお蔭で馬鹿をカムフラージュ出来ることが多くなった。知らない言葉や事柄に出くわせば直ちに検索して3年前から知っている顔で話せる。ラジオやNETで情報入手が自由自在だ。写真も撮れるし録音やメモもできる。何よりメールの送受信が寝床でも出来る。有り難いことこの上なしだ。

そこで最後に自作短歌を一首。

水・空気 衣類・食べ物 家・スマホ

これさえ有れば明日も生きれる

(日本経済新聞「歌壇」に掲載、2013年5月12日)

やまもと あきら

山本章先生

山本章先生は、京都大学薬学部をご卒業後厚生省に入省され、厚生省薬務局を中心に様々な行政に携わられてきました。特に厚生省では医薬分業を推進されてきました。退官後はNPO法人青葉の樹理事長として、精神障害者の自立支援の活動を続けられています。山本先生の8回にわたる連載は今回で終了となります。「くすりは最高・くすりを再考」という主題で、くすりの歴史から最近の話題までわかりやすくご解説頂きました。後半は、くすりは最高だが、生活習慣の改善に努めることの重要性についてご説明頂きました。ご多忙の中ご寄稿頂きましたことを心より御礼申し上げます。

みんなの病気体験記

「みんなの病気体験記」では、実際に病気を体験し病気と闘った方から体験談を投稿して頂いています。この体験記は同様の病気と闘われている方を勇気づけ、また日頃健康な方には病気を知ること、予防につながるものとなるのではないのでしょうか。この記事をご覧の皆様にも、ぜひ体験談をご投稿頂き、みんなで病気と闘っていきましょう。



心臓カテーテルアブレーション体験記

米沢 実 (Meiji Seika ファルマ株式会社)

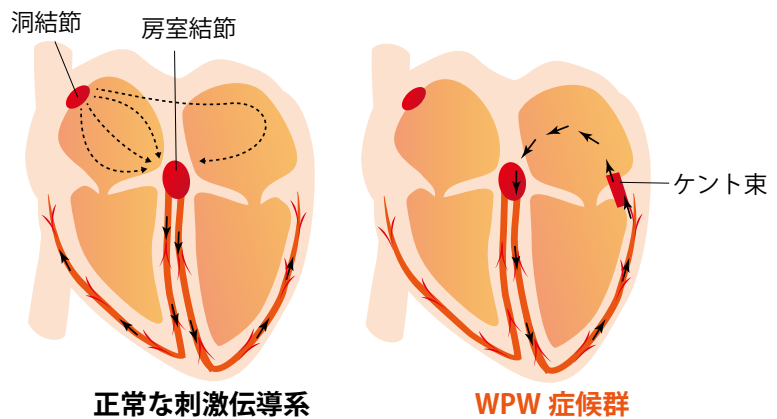
2014年8月、Wolf-Parkinson-White 症候群 (WPW 症候群) の診断を受け、心臓カテーテルアブレーションを受けました。心臓内にカテーテルを挿入し、高周波電流により心臓内部の不整脈の原因となっている部分を焼き切る治療法です。54歳のときに不整脈発作を起こし、55歳の2回目の発作後に、施術を受けた顛末を述べます。

WPW 症候群では、心臓内に房室結節以外に、ケント束とよばれる副伝導路が存在し興奮回路ができ、頻拍発作の不整脈となり、さらには、心房細動も誘発することもあります。先天性で、数百人に一人の割合で存在し、私の場合は、安静時の心電図ではわからない潜在性タイプでした。安静時心電図でも判別可能な顕在性タイプでは、まれに、心室細動を引き起こし心停止となり不幸な転帰をたどる例もあるそうです。

最初の発作は、2013年9月で、自宅で風呂上りにくつろいでいるとき、突然、心臓がドクドクと脈打ちだしました。1分間に150くらいの脈拍数で、10分後も治まらず、夜間救急のある病院に向かったのですが、30分経過したころ、自然に治まりました。病院での心電図でも異常なしで、それほど気にせず放置しました。

2014年6月、福岡での学会に出席し、朝9時に会場に着席したとき、発作が始まりました。近くの病院での心電図から、医師より、「発作性の頻拍なので、循環器専門医を紹介します。」といわれ、紹介された病院を受診しました。

その病院では、発作性上室性頻拍の診断で、眼球圧迫・内頸動脈圧迫などでも止まることがあるとのことで、外来で試されました。止まらず、特



効薬を使うと言われました。そのときは知りませんでしたでしたが、それはATPで、血中でアデノシンとなり、半減期5～10秒で、短時間の房室ブロックを起こします。ところが、外来で待機中の11時30分ごろ、医師から、「心電図の波形が変わり、心房細動になっています。心房細動そのものの危険性は高くないですが、血栓ができて脳梗塞を起こすことがあります。」との説明でした。私には高血圧、糖尿病などのリスク要因がなく、抗血栓薬の投与はありませんでした。そのまま外来にて、ベラパミル、フレカイニドの静脈投与後、1泊入院することとしました。病室に移ってから、午後5時ごろに、脈のばらばら感がなくなり、心電図モニターも正常に戻りました。

翌日、自宅のある川崎に戻り、かかりつけ医から循環器専門医を紹介されました。専門医からは、「発作時の心電図からは発作性上室性頻拍で、その原因としてのWPW症候群の可能性もありますが、いずれの場合もカテーテルアブレーションで治癒します。」と言われ、初めてその言葉を聞いたのです。2週間後の次の診察までに専門書、ウェブなどで調べ、また、担当医が年間100例



の経験もされているとのことで、お願いすることとしました。

わずか1泊2日の入院治療でした。局所麻酔と鎮静剤を用いて覚醒下で施行されました。以下、退院後すぐにまとめたメモによります。

12:00 右腕に静脈路確保。セファゾリン 1g 投与開始。

12:50 手術室に入室。モニター用の多数のパッチが体に貼られました。心電図画面、透視画面、3次元心臓画面が並んでいました。

「始めます。」と、顔に布がかかり、右脚の付け根と右首の何箇所かに局所麻酔されました。「カテーテルを入れます。」で、ぐいぐいとした感じで挿入されましたが、痛みはありませんでした。右大腿静脈から3本、右内頸静脈から1本が挿入され、「検査から始めます。」と、顔にかかった布の左側が半分はずされました。すぐ隣に、看護師がおられ、声をかけたり、それに対する返事を確認していました。

「どきどきしますけど、心配いりません。」との言葉。室内にドクドクという音がしていましたが、その音は私の心拍をモニターしたものでした。心拍が早くなったり、止まったりの繰り返しでした。そのうち、スタッフ間で、「出ましたね。これですね。」の会話。

「それでは、治療に入ります。左脚付け根より、治療用カテーテルを入れます。」で、左脚付け根

より、カテーテル挿入。スタッフ間で、「いきすぎ、いきすぎ。」「もう少し先。」「そこで、ステイ。」「出力・・・。」「10秒、20秒、30秒。」「オフ。」看護師より、「痛いですか。我慢できますか。」との声かけ。私より「痛いけど我慢できます。」の返事。この操作が数回繰り返されました。(焼灼用カテーテルを操作する医師と、画面でカテーテルの先端位置を確認する医師がおられたようです。)

「上手く焼き切れたかの判断のため、薬を入れて確認してみます。気持ち悪くなりますが、すぐにとれます。」と、その直後に、なんともいえない気持ち悪さに襲われましたが、すぐにとれました。(ATP投与により短時間の房室ブロックを起こし、副伝導路焼灼の確認です。)

医師より、「確定診断はWPW症候群で、ケント束を焼き切りました。上手くいきました。カテーテルを抜きます。」と、カテーテルが抜かれ、両脚付け根、首を10分間ほど圧迫。圧迫が終わり、止血用のバンド、テープできつく固定。

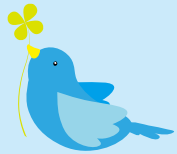
14:10 手術室より病室に。4時間は仰向けのまま動いてはいけないとの指示。これが最もつらいものでした。30分おきに、止血箇所の確認、バイタルチェック。心電図にて、翌日の退院時まで監視。

18:20 止血を確認し、寝返りすることが許可。横になったまま、おにぎりや串刺しの副菜の夕食。食後、医師より成功したとの詳細な説明。

20:20 止血を確認し、安静状態解除。セファゾリン 1g 投与。

翌日午前中に退院。1箇月後に24時間ホルター心電図にて異常なく、3年間が経過し、発作は一度も起きていません。

以上のように医療技術・医療機器・IT技術の発展の恩恵を受けることができ、感謝しています。WPW症候群での発作を経験された方には、カテーテルアブレーションも治療選択肢のひとつであることを知っていただきたいと思っています。



東北便り

前号に引き続き、大船渡市ご在住の村田友裕様よりご寄稿をいただきました。家、事務所、印刷機械、車と全てを流されてしまった村田さんが、一步一步生活再建をされていった貴重な記録です。2018年3月11日である日から7年経ちます。体験を風化させず、悲惨な出来事を二度と繰り返さないために、村田さんは今年も大船渡の子供達を連れ沖縄の子供達との交流事業に行かれるそうです。私達も日頃から災害に備えて食料や災害用品の準備を行うことにプラスして何かもうひとつできることを考えてみたいものです。
(情報協力：村田プリントサービス 村田友裕様)

気仙の惨状（後編）

村田 友裕

震災から1週間ほどが過ぎましたが、日課は、相変わらず食料調達と水汲みでした。電気は比較的早く回復し、携帯電話も繋がるようになってライフラインも少しずつ復旧していきました。後編ではこの復旧・復興について説明します。

震災後しばらくは家内の実家に仮住まいしていましたが、いつまでも世話になっている訳にもいきません。生活再建の第一歩としてアパートを探すことにしました。

印刷所を営んでいた私は、津波で自宅兼事務所を全て失ってしまいましたので、仕事を再開することもできず、収入の見込みは全くありませんでした。幸い、アパート探しをしている頃には、だんだんと友人・知人・親戚・兄弟などから義援金が寄せられました。私が20歳の頃、大船渡市勤労青少年ホームで2年ほど一緒に活動し、その後40年間は年賀状だけのつきあいになっていた古い友人は、わざわざ青森県から軽自動車に納豆や豆腐、米に野菜等を積んでお見舞いに来てくれました。

3月の末には、この義援金を元手にアパートを決めたのですが、ちょうど同じ日に市役所から雇用促進住宅の入居通知が届きました。家賃がかからない雇用促進住宅に入居すれば、義援金は仕事の再開にまわせると考え、6畳の居間と4畳半の寝室の2間の雇用促進住宅に4月1日に入居しました。私たち夫婦と息子、それに老いたお袋の四人家族にはかなり狭いもので、やはり雇用促進住宅も自宅を再建するまでの仮住まいでした。

さて、住まいをなんとか確保した次の一步は、仕事の再開です。個人事業者が仕事場や機械を全て流されてしまいましたので、その再開は容易ではありません。

まず、簡易型印刷機械を購入することを考え、商工会議所に行き融資の相談をしました。しかし、地震や津波で建物や事業所が全壊しても、ローンだけは残っているのです。私の場合、流されてしまった機械のローンが残っていたため、印刷機の融資を申請しても、全額が融資してもらえないということなのです。いわゆる二重ローン問題です。

仕事の再開を模索している中、5月になり一般の飛行制限が解除されましたので、友人から勧められていた航空写真撮影を敢行することができました。いわて花巻空港から飛び立った飛行機が、沿岸部に近づくとその景色を見て目を疑いました。緑豊かな気仙の町はすっかりその姿を変え、見渡す限り灰色の町となっていたのです。約2時間のフライトでしたが、夢中にシャッターを押し続けました。

ある日、雇用促進住宅の直ぐ近くの友人を訪ねた時でした。家族、知人の安否や、復旧・復興情報について一通り話した後、その友人が、自宅の一角にある10畳ほどの離れを私の仕事場として使っていてと言ってくれました。仕事の再開の目処がたたず、藁をも縋りたい気持ちでいましたので、友人の厚意に甘えることとし、早速ネットで購入したばかりのパソコンを運び入れ、簡易型の印刷機も設置し、印刷業の再開の準備も整い

ました。これで、あとは仕事の依頼を待つばかりとなりました。しかし予想だにしないことが起こりました。仕事がこないのです。生活再建にむけローンを組み印刷業を再開したものの、仕事がこないことには借り入れた借金すら返せなくなると思い、毎日眠れない夜が続きました。

そんな時でした。物資を差し入れに来てくれた知人が、「オイラもかなりの方々から義援金や救援物資を貰ったんだが、ワカメもホタテもないし…お前が撮った写真で簡単な写真集を作ってもらえたら、お礼を兼ねた報告に使えるんだが？」と切り出してきたのです。この知人の一言で、被災地の現状を報告ができるような写真集を作ることを決めました。私自身もかなり多くの人から救援物資や義援金をいただいていたので。

避難の際に持ち出したハードディスクには震災前の写真データがあり、震災直後から2台のカメラを肩にかけ、写真を写し続けていました。そこで出来るだけ震災前と震災後の対比が解るような方針で編集作業に取り掛かりました。急ピッチで進め、僅か1週間で編集が終わりました。タイトルを「気仙の惨状」とし、タイトルは地元では著名な方に無料で揮毫していただきました。そして、地元、ローカル新聞に事業再開のお知らせと写真集の発売予定広告を掲載する事にしました。

新聞の広告掲載の朝は、5時頃電話の音で起こされました。勿論知らない人からの電話でしたが、「本を注文したい」と言うのです。その後も次から次へと電話が鳴り続け、午前中は対応に追われました。当初印刷所に1,000部を発注したのですが、その日の午後には1,000部の追加印刷をお願いしました。なにしろ新聞には1,000部限定とうたっていましたから、まさにビックリでした。

7月の初めに本が納品されましたので、注文者へ息子と二人で配達に向かいました。夏のくそ暑い中、カーナビも地図も無く、企業なら解るのですが一般家庭は1件毎に訪ねながらの配達でありました。「こんにちは、村田プリントです。注文の本を持ってきました。お宅は1冊の注文でしたよね」と声をかけると、本を手にした多くの方々は直ぐにその本をペラペラ捲って、「ん…あと2冊置け」とか「あと3冊くれ」って言ってくださるんです。3日間朝から晩までこの配達が続きました。しかし、このままでは倒れてしまうと思い、本屋さんに置くことにしました。大きな企業は、50、100冊とまとめて購入してくれました。用途は一般家庭も企業も同じで義援金や救援物資を頂いた方々への御礼を兼ねた報告書でした。震災前と震災後の写真には自分の家の部分に付箋紙を貼って親類等に送られたようでした。このような目的での購入が地域の皆さんに広がり、私の所にメールや電話で次から次へと注文が来るので

死ぬまでに借金ゼロがオイラの目標

営業再開のおしらせ

当社は今回の震災で事業所兼家屋・機材等全て流出し、お客様には大変なご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。その後、友人・知人・親類や取引先の皆様方から多大なる義援金や励ましのお言葉をいただき、誠に有り難う御座いました。紙上をお借りして深く感謝申し上げます。今後の方針につきまして熟慮を重ねました結果、社会的責任(借金返済)を果たすべき方向に進むことを選択いたしました。この度、政府系金融機関からの理解も得られ、知人の物置を工場代わりにお借りできました。固定電話やネットがようやく復旧致しましたので一部同業者の協力を頂きながら、人生の最終章と位置づけまして歩む所存でございます。これまで通りのお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。



一般印刷 & 写真撮影

村田プリントサービス

旧事務所：大船渡市大船渡町字野々田 18-27)
事務所：大船渡市大船渡町字赤沢 85 番地
雇用促進住宅 1 号棟 104 号室
TEL.0192-26-3738 FAX. 共通
E-mail:murata-printservices@alpha.ocn.ne.jp

東日本大震災大船渡市・陸前高田市記録写真集

気仙の惨状

近日発行
予約受付中



■津波の襲来と被害の状況
■航空写真で見える被災前と被災後
A4判 100頁オールカラー、写真点数 168枚で構成
初版限定 1,000部 頒布価格：2,000円
※お申し込みはファックスかメールでお願い致します

す。家や事務所を全て流され、やっとのことで印刷業を再開したものの仕事もこず、余震に怯えローン返済で頭を抱えていた中、ようやく生活再建の前途に光明を見いだしたように思いました。

さて、友人や知人から頂いた救援物資や義援金などの厚情に感激して涙を流す一方で、行政の対応には憤りを感じておりました。私の事務所を兼ねていた家が、印刷機械とともに流されてしまいローンだけが残っていました。震災前の生活に戻るためには、家、仕事場、印刷機械、そして車が必要でした。

年も押し迫った頃、車を買いに盛岡市まで行きました。適当な車を見つけまして、頭金で一部払うから残りはローンを組んでくれるように営業担当者に話したら、「被災者は無理です」と言われました。とにかくローン会社に頼んでくれるよう話して帰ってきました。翌朝、電話があり「やはり被災者はだめだそうです」というのです。最終的には、別のローン会社でローンを組めることになりましたので、その車を購入しましたが、被災県岩手県の自動車販売会社・ローン会社はなぜ生活再建に取り組んでいる被災者に対して「ローンは無理です」と言えたのでしょうか。

震災の翌年、雇用促進住宅の近くの友人宅へ正月の挨拶に行ったとき、高齢のため畑作りをやめようと考えているという話から、友人の畑の土地に家を建てていいと言われました。

家を建てるには住宅ローンを利用しなければなりません。私には流された家のローンが残っていました。生活再建にむけ「二重ローン減免制度」が報道され、被災者は期待しましたが、決して利用しやすい制度とは言えませんでした。いろんな相談会、無料法律相談会に行きましたがいずれも役に立ちませんでした。

また、住宅再建のための補助金を受けるには市役所に行って「建築確認申請書」の写しを持って手続きをするのですが、国からは1週間程で厳めしい文章と共に振り込みされました。しかし、県からの補助金は建築請負主、いわゆる大工さんに全額を支払って、その領収書の写しを提出しなければ貰えないのです。被災者がローンの残る家や家財道具一式を失い、手元に建築費が無いから補助金を申請するのにもかかわらず、県からの補助金を受けるためには、建築費を全額支払ってその領収書を添えて申請しなければならないのです。

結局、国と県から補助金を頂き、住まいはなんとか再建できましたが、私の場合は仕事が無い中、友人の助言で作成した「気仙の惨状」が思いがけず好評を博したため、生活再建できましたが、この友人の助言がなければ今も無料相談会通いの毎日で、路頭に迷っていたと思います。

被災者は、被災地での生活再建・生活の自立が困難な場合は、地元での生活をあきらめ都会に仕事を求めていきます。被災地からオリンピック景

大船渡市中心部の様子



2005年9月9日撮影



2011年5月3日撮影

気に入く東京へと、若者を中心とした働き手の人口流出が続いたら、残るのは生活再建をあきらめた高齢者だけになってしまいます…私の考えすぎでしょうか。

東日本大震災の後も、日本各地で天災による被害が続いています。被災地全体の復興・再活性化を実現するためには、被災者に寄り添った、自立支援、そして迅速な立法化や施策は重要な課題です。



在りし日の JR 大船渡線 (2007 年 4 月 24 日撮影)



イベント列車 後方は旧魚市場 (2007 年 7 月 18 日撮影)



三陸鉄道と併走の BRT (2013 年 9 月 18 日撮影)



BRT(バス高速輸送システム)・後方は魚市場 (2014 年 4 月 22 日撮影)



今日の BRT (2017 年 10 月 27 日撮影)



2014 年 5 月 28 日撮影



2017 年 6 月 29 日撮影

第31回市民公開シンポジウムの報告

お父さんの健康を考えよう・前立腺がんのお話

2017年10月7日（土曜日） 慶応義塾大学薬学部 芝共立キャンパス 記念講堂



第31回市民公開シンポジウムでは、第1席の東邦大学医療センター佐倉病院 鈴木啓悦先生から、「前立腺がんの診断から治療までの流れ・侵襲の少ない外科手術へ」というご演題で、前立腺がんの病態と診断、そして外科的治療法についてご講演をいただきました。前立腺がんは初期の段階ではほとんど症状が現れないため、腰痛や座骨神経痛等症状がでて診察を受けた際に、進行がんの状態で見られることも多いようですが、簡単なPSA検査で見え、直腸診、生検といった一連の検査で確定診断が出来るようになったこと、そして、がんの進行度に応じてそれぞれ治療法があること、根治療法としての外科手術法について、詳細にご説明いただきました。前立腺の周囲には血管や神経が多く走っていて、QOLを下げないで手術をするためには匠の技がいること、そして最新のロボット支援（ダ・ヴィンチ）手術についてもご紹介いただきました。

次に、筑波大学附属病院放射線腫瘍科の石川仁先生からは「ピンポイント放射線治療はどこまでできたか」というご演題でご講演いただきました。従来、放射線治療は姑息的な治療と位置づけられていたようですが、昨今の治療技術の進歩とホルモン療法の併用で外科手術と同等の治療成績をおさめるようになったこと、さらに強度変調放射線治療（IMRT）、粒子線治療といった最先端の治療方法についてご講演いただきました。

アステラス製薬株式会社の草山俊之先生からは「治療薬のこれまで・そしてこれから」と題して、前立腺がんに対するホルモン療法、そしてホルモン療法が効かなくなった場合の新規薬剤について創薬研究の立場からご講演いただきました。



シンポジウムの総括として、鈴木啓悦先生に再度ご登壇いただき、「最新の薬物療法はどこまでできたか」という演題でご講演いただきました。前立腺がんに対する内科的治療の歴史的経緯からホルモン療法の現状、そして去勢抵抗性となって臨床的に再燃をきたした患者への新規内分泌薬、新規抗がん剤治療についても詳細にご説明いただきました。

前立腺がんは、男性では胃がん、大腸がん、肺がんに次いで4番目に罹患率が高いがんで、昨今患者数も増大しているとのことでした。食生活と適度な運動で予防に努め、さらにPSA検査を受けて早期発見に努め、PSA検査で疑いがあるといわれたら、名医に治療をして頂きたいと思われて皆さんお帰りになったことと思います。

今回のシンポジウムも新聞広告の締め切り日前に定員に達してしまい、多くの皆様から折角お申し込みを頂きながら、お断りのお手紙をお送りすることになってしまいました。事前準備や当日の運営におきまして行き届かない点多々ありましたことを心よりお詫び申し上げます。

- 第32回市民公開シンポジウム -

主題：婦人科がんの話

日時：2018年5月26日（土曜日）13時から

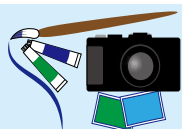
会場：産総研 共用講堂（茨城県つくば市東 1-1-1）

企画 / 講演：佐藤 豊実先生（筑波大学産婦人科教授）

講演：志鎌 あゆみ先生（筑波大学産婦人科講師）

講演：池上 正晃先生（中外製薬株式会社）

婦人科悪性腫瘍のひとつ、**卵巣がん**は年間約9000人が発症し、そのうち約5000人の方が死に至る、予後の悪いがんのひとつです。ほとんど自覚症状がなく、また検診での発見も難しいため、すでに進行した状態で見つかるケースも多くみられます。少しでも早く発見し、適切な治療を行うためには、**婦人科**について正しい知識を身につけておくことが大切です。詳細は次号にてお知らせ致します。



読者のこえ

『読者のこえ』では、皆様から頂きました写真イラスト、川柳などを掲載しております。



熊本城に行ってきました。熊本地震の発生から1年半がたち、天守閣の回りには足場が組まれ復旧がすすんでいるように見えたが、石垣は手つかずのところもあり復旧にはまだまだ時間がかかるようでした。(くま紋太様)



投稿のお願い

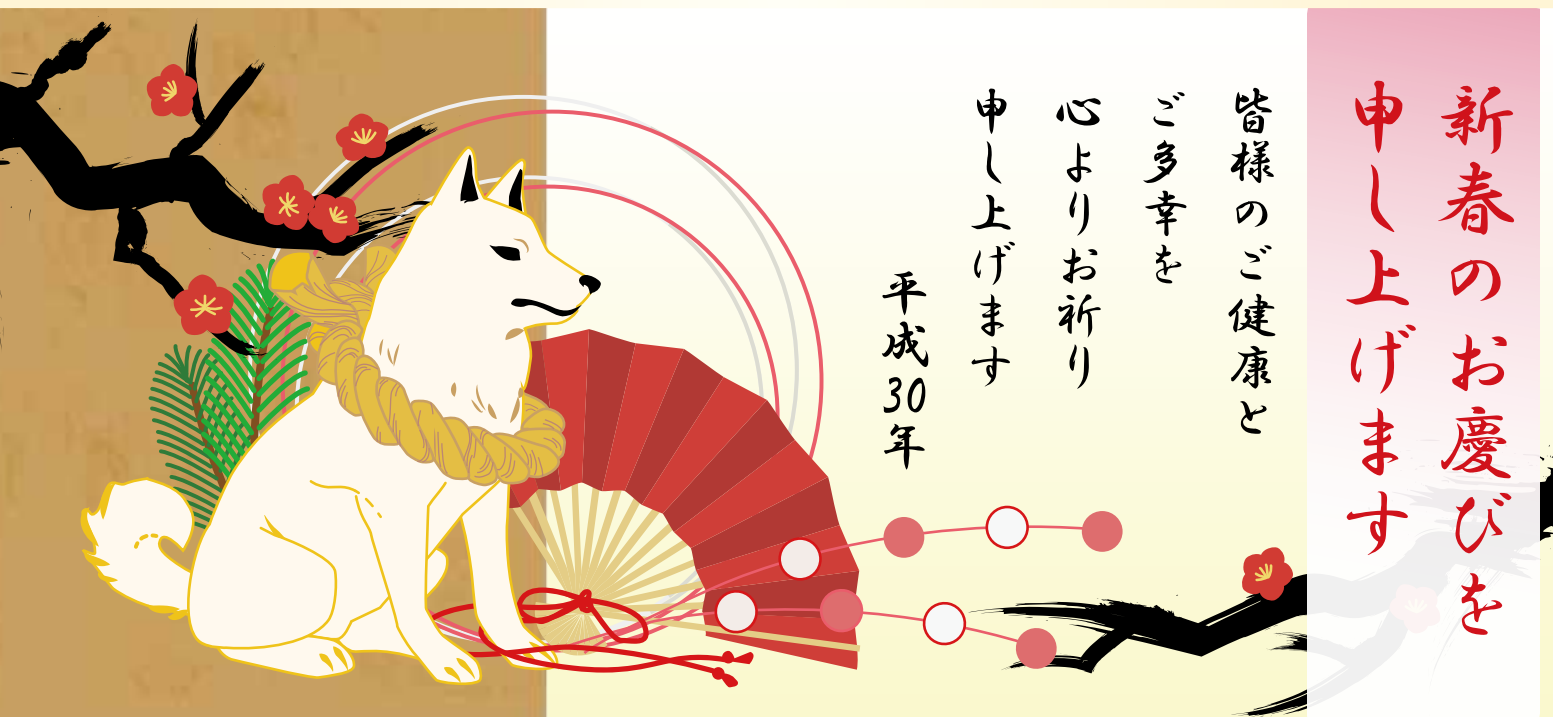
皆様のご質問やご意見、写真、イラスト、川柳、体験記などを事務局までご投稿下さい。

送付の際には、名前、ペンネーム（掲載の際に使用する名前）、住所（返送及び掲載のご連絡に使用致します）を記載の上、作品を郵送もしくはE-mailにてお送り下さい。

その他にも新聞やシンポジウムに対するご意見・ご感想も随時募集しております。ご投稿頂いた方には、事務局より心ばかりの記念品をお送りさせていただきます。

送付先：〒272-8513 千葉県市川市菅野5-11-13 市川総合病院 角膜センター内

E-mail: information@hab.or.jp FAX: 047-329-3565 HAB 研究機構 市民会員事務局まで



新春のお慶びを
申し上げます

皆様のご健康と

ご多幸を

心よりお祈り

申し上げます

平成30年

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は多くの皆様にご愛読いただきまして、誠にありがとうございました。本年も皆様にお役に立つ情報をお届けできますよう、より一層精進してまいりますので引き続き HAB 研究機構をよろしくお願いいたします。

なお、山本章先生の連載が今回で最終回となりました。次号からは新連載が始まりますので、楽しみにお待ち下さい。

書籍のご紹介



気仙の惨状・特別版 定価 2,000 円

東北便りにご寄稿いただきました大船渡市ご在住の村田友裕氏が「気仙の惨状」の初版を 2011 年 7 月に発行され、本誌はその第 2 版本になります。

2011 年 3 月 11 日の大震災、津波の襲来から、被害の状況を自ら歩かれて、シャッターを押された貴重な記録写真集です。

東日本大震災のあの年、私たちは連日の余震に怯えながら大震災の被害報道を目にしていました。6 年と 10 か月がたち、報道も少なくなりました。ともすると忘れがちになってきているあの日の惨状を次の世代にも伝え、記憶を風化させないことが、天災の被害を最小限にするために出来ることかも知れません。

お問い合わせ先：村田プリントサービス

〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町字赤沢 78-1

Tel/FAX：0192-26-3738 E-mail：murata-printservices@alpha.ocn.ne.jp



図解 食卓の薬効事典 定価 2,200 円+税 野菜・豆類・穀類 50 種

市民新聞に「身近な薬草と健康」を連載をいただいております池上文雄先生の著書が発売されました。

日々の食材となる野菜や豆類、穀物の持っている薬効について漢方の観点から紹介されています。改めて口にする食材について有効な利用法や食べ方を知ること、健康に生きるということをも今一度考えてみてはいかがでしょうか。

著者：池上文雄

出版社：農文協（一般社団法人農山漁村文化協会）

発行：2017 年 10 月

表紙説明 尾張大國霊神社儼追神事（はだか祭）（愛知県稲沢市）

開催日：毎年旧正月 13 日
（2018 年は 2 月 28 日）

尾張大國霊神社儼追神事は、別名「^{こうのみや}国府宮のはだか祭」ともよばれ、愛知県稲沢市尾張大國霊神社（尾張総社国府宮）で毎年旧正月 13 日に斎行される神事です。その起源は古く、神護景雲元年（767 年）称徳天皇の勅命によって悪疫退散の祈祷が全国の国分寺で行なわれた際、尾張国司が総社である尾張大國霊神社に於いても祈願したのが始まりと伝えられています。



裸祭の当日は、42 歳と 25 歳の厄年の男を中心に、尾張一円からサラシの褌に白タビ姿の数千人の裸男が集まります。裸になれない老若男女は、願いを込めた「なおい布」を「なおい筐」に結び付け、裸男たちはそれを担ぎ、群れをなして威勢よく境内へ駆け込み皆の願いと共に奉納します。「なおい筐」奉納の後は、手桶隊が登場し裸男達めがけて水をかけ始めます。そして、全身無垢の儼負人（神男）が、裸男の群れの中に密かに登場することで、祭りはクライマックスとなります。裸男達は、神男に触れて厄を落とそうと、神男に殺到し凄まじい揉み合いになります。神男は裸男達に揉まれながら、参道から楼門を通り儼追殿を目指します。



裸祭の翌日午前 3 時には夜儼追神事よなおいしんじが行われます。神男にありとあらゆる罪穢をつき込んだものとされる土餅を背負わせ神職が大鳴鈴を振り鳴らしながら境外へ追放します。そして、神男は途中で土餅を捨て、土餅は神職の手によってその場に埋められます。古くより、土から生じた罪穢悪鬼を土に還すことで国土平穏に帰することができるとするこの神事が、儼追神事の本義であって最も神聖視されています。



祭り当日は、この神事を一目見ようと県内外から 10 万人以上の参拝客で賑わうそうです。



国府宮のはだか祭を見に、この冬は愛知県稲沢市に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。



写真情報協力：尾張大國霊神社

無料配布のご案内

HAB 市民新聞は、地域の病院・薬局などにご協力いただき、病院や薬局の待合室などで市民の皆様^{皆様}に無料でお配りしております。個人様も配布窓口として登録いただき、お知り合いの方々にお配り^{お配り}いただいております。是非とも興味をひかれた記事がございましたら、バックナンバーなどホームページ（<http://www.hab.or.jp/>）でご紹介しておりますので、お気軽に事務局までお問い合わせ下さい。

ナンバークロス

東 恵彦先生作成のナンバークロスです。解答を事務局までお送り下さい。
 同じ番号に同じカタカナを入れて、縦横意味の通じる語句にして下さい。
 ヒント：水色のマスには百人一首の和歌が入ります。



1	2	3	4	5		6	5	7	8
9	10		11	12	13	14	15	16	17
18		1		7	19	3		20	4
	21	19	22		23		24		21
25	26	10	20	6		11	7	2	
27	20		7	26	12	28	9	8	29
	30	22		4	30	11		22	27
3		16	28	19		4	25		18
15	26	20	7		29		5	8	
13	14		27	5	17	24	22	23	16

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13 ウ(フ)	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30

※解答は次号（第 49 号）に掲載します。

故 東 恵彦先生は東京大学医学部をご卒業後、昭和大学、筑波大学医学部教授を務められ、定年後は長原三和クリニックで院長を務められていました。東先生は百人一首の一句一句でナンバークロスを作成されており、その中から、冬の作品を選びました。是非、皆様解答を事務局までお寄せ下さい。

※解答の黄色のマスに入るカタカナをつなぐと、ある言葉ができあがります。解答を住所、氏名をご記載の上、事務局までお送り下さい。抽選で 5 名の方に粗品をプレゼントします。

解答ヒント： 25 13

締切り：3月5日（消印有効）

ナンバークロス 解答

■ 前号（第 47 号）のナンバークロスの解答です。

解答：『サイシカジン（才子佳人）』

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
コ	ノ	タ	ビ	ハ	ト	ケ	イ	ヤ	シ	カ	ズ	エ	キ
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
ヌ	サ	モ	リ	ア	ン	ク	ネ	ミ	ム	マ	ジ	ニ	

編集後記

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は多くの皆様にご愛読頂きまして、誠にありがとうございました。新年も役に立つ情報をお届けできますよう、事務局一同より一層精進して参りますので、本年も HAB 研究機構を何卒よろしくお願い申し上げます。事務局にはナンバークロスの解答だけでなく、読者のこえ、そして病気体験記に多くの皆様からご投稿を頂けるようになって参りました。引き続き、皆様のご投稿をお待ちしておりますので、お気軽に事務局までお寄せ下さい。

HAB 市民新聞 命と心をつなぐ科学 第 48 号
 発行：特定非営利活動法人 HAB 研究機構 HAB 市民会員事務局
 千葉県市川市菅野 5-11-13 市川総合病院 角膜センター内
 TEL：047-329-3563 / FAX：047-329-3565
 URL：http://www.hab.or.jp / E-mail：information@hab.or.jp

2018 年 1 月 発行
 代表者：深尾 立（理事長）
 編集責任者：山元 俊憲（広報担当理事）
 中島 美紀（広報担当理事）
 鈴木 聡（事務局）

■ H A B とは Human & Animal Bridging の略で、「ヒトと動物の架け橋」という意味です。病気やくすりの研究では実験動物から臨床試験へは大きな隔りがあり、社会問題ともなっています。私どもは、この隔りを埋めるために、ヒト組織や細胞が有用であるという情報を皆様に発信し、共に考えていく団体です。著作権法の定める範囲を越え、無断で複写、複製、転載することを禁じます。